



令和2年度(2020年度)活動報告



【児童福祉法に基づく児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業】

- ・聴覚障害児支援「かいじゅうの森」 延べ利用人数：3896人
- ・登録者数： 幼稚園 12名 小学部 20名

宿題を中心とした学習、毛筆・硬筆教室、英語教室の他、ボランティアの方々による料理教室、クラフト教室、折り紙教室、お話会なども実施。浦山公園や久留米市内の施設での活動。

【聴覚障害教育支援事業】

言葉の森連続講座：計6回

テーマと講師

- 第1回 「自己肯定感と言葉の土台を育てるために」…………… 木島照夫氏
- 第2回 「聴こえない・聴こえにくい子どもは『目の人』」…………… 南村洋子氏
- 第3回 「手話で育つ心、手話がつなぐ親子」…………… 井料美輝子氏
- 第4回 「私にとっての言葉・学校・家族」…………… 前田浩氏
- 第5回 「中等度難聴の息子、20年の子育て」…………… 高村一枝氏
- 第6回 「聞こえない・聞こえにくい子ども達と保護者のために」… 関根久美子氏

※当初は全て会場開催予定だったが、途中より新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となった。久留米市市民活動センターみんくるの協力を受けながら、オンライン開催の技術を学ぶことができた。

【子育て支援事業】

- ・家族手話教室：計7回 参加者合計367人（9月よりオンライン開催）
- ・久留米聴覚特別支援学校乳幼児教育相談主催による保護者教室支援（全18回）

【聴覚障害理解啓発事業】

- ・わくわく手話まつり：コロナウイルス感染症拡大のため中止

【聴覚障害者雇用推進事業】

- ・ふらっとカフェ：計2回（2月はコロナウイルス感染症拡大のため中止）参加者合計17人

【相談支援事業所言葉の森くるめ】

- ・利用登録者：3月時点22名
- ・保護者や学校、事業所との連携を取りながら、聴覚障害児の支援について一歩踏み込んだ取り組みをすることができた。
 - ・相談支援事業所を始めたことで、久留米市障害支援相談機関センターとの連携が取れ、より多くの情報を得ることができるとともに、相談ネットなど研修の機会もあり、活動の質の向上につながることができている。

【聴覚障がい児支援中核機能モデル授業】

- ・国からの指定は1年間、しかも新型コロナウイルス感染症のため実質半年の短い期間ではあったが新生児聴覚スクリーニング検査を実施している産婦人科、地域の子育て支援課等関係機関を訪問し広報活動を行うことができた。また、STの雇用もでき（2021年度も継続雇用）一定の効果を得られることができた。